平成 22 年度第２回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

〇日時　平成 23 年 2 月 22 日（火）　13:30 ～ 15:30
〇会場　宇都宮市冒険活動センター　会議室
〇出席者氏名
・高梨　敏朗委員　·神長　信夫委員（副会長）　・堀江　佳代子委員　・佐藤ハツエ委員　・森川　澄子委員
・新嶋　高行委員　・伊東　明彦委員（会長）　・沼尾　順市委員　・田代　広三委員　・坂内　剛至委員
・糸井　陽子委員　・入江　尚見委員
（事務局）　塩田　雅明所長，海老原　勝副所長，矢野 学指導主事　佐藤 洋美指導主事
〇欠席者氏名
福田　智恵委員
〇公開　（傍聴者の数　０人）
１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
(1)　報告事項
①　平成 22 年度事業報告について（ア　学校受入事業，イ 主催事業，ウ 利用状況）・・・資料　1
事務局　：　（資料にそって説明）
議　長　：　宇大の野外教育学習の一環として，学生が冒険キャンプに参加しているが，学生は１～２日訓練してから子どもたちの支援にあたっているのか。
事務局　：　宇都宮大学の野外教育という授業で，学生は月曜日に来て２日間は，実際に子どもたちに支援するイニシアティブゲームなどの活動を体験してもらっている。その際には，活動の補助の仕方や注意点などを説明している。冒険キャンプは水曜日から 3 日間あり，学生は水曜日の昼から子どもたちと合流して，直接関わり合うことになる。
議　長　：　参加した学生は何か資格を取れるのか。
事務局　：　野外教育の自然体験推進協議会が発行する CONE リーダーという資格があり，希望する学生は CONE リーダーに登録することができる。ほぼ全員が登録している。
議　長　：　イノシシが減ったという説明があったが，下草刈りをした効果があったということなのか。
事務局　：　あると思う。
議　長　：　今年度は昨年に比べて，近隣でもイノシシの数が減っているのか。
事務局　：　県や市でも対策を取っているということなので，その効果か。
沼尾委員：　地元では，農家の方が集落ごとに個別に対策を取っている。多少減っているのではないか。県では県内全域で７０００頭捕まえたとのこと。県ではかなり力を入れている。

②　平成 23 年度事業計画について（ア　学校受入事業，イ　主催事業）・・・資料　2
事務局　：　（資料にそって説明）
議　長　：　9 ページの日程は決定ということでよろしいか。
事務局　：　決定である。
神長委員：　地域学校園実施についての問い合わせはなかったか。
事務局　：　特に問い合わせはなかった。
高梨委員：　学校を出るというのが今は難しいので，冒険活動教室の機会に，地域学校園の学校を一緒の時期に組んでいただけるのは非常にありがたい。
議　長　：　主催事業が若干減少するのは仕方のないことなのか。
事務局　：　来年度実施してみて，日程的に実施が可能な場合は今後復活するものもあるかも知れないが，来年度はこの形でやっていきたい。
森川委員：　ネイチャーゲーム協会で，毎年「子どものもりフェスティバル」に参加しているが，毎年同じ

ような活動を行っている。昨年度は，1 種目活動を変えて実施した。面白かった，面白くなかったなど参加者の意見などあれば参考にしたい。

事務局　：参加者からは，アンケートをとっている。今年度は来場者約 1000 名で，400 名分の回収があった。その中で，「ネイチャーゲームをやって楽しかった」，「自然に目を向けられてよかった」という意見があった。アンケートの結果を協力団体の方々に返していなかったので，今後は伝えていくようにしたい。

沼尾委員：来年度はフェスティバルの開催日が半月早くなるのか。

事務局　：日程の関係で，学校受け入れが土曜日まで入っていると準備が難しい。また，今年度は例年より 1 週早めて開催したが，前日までかなり雨が心配される中での開催となった。来年度は，準備もしやすく，季節的にも良さそうな秋休みの終わりごろに日程を組んだ。協力団体の方には，この時期に実施することについて，都合などを確認していないので，都合が悪いという団体が出てくるかも知れない。

森川委員：一般市民として考えた場合，高齢者の利用はあるのか。来年度の 9 月に篠井地区敬老会という予定が入っているようだが，今までもあったのか。どんな活動をするのか。

沼尾委員：活動をするのではなく，敬老会の祝いの行事をこちらのレストランで行う。

事務局　：一般の利用の中で，高齢者だけの利用というのは，数は少ないが 0 ではない。今回，日程の中に入っている敬老会というのは，敬老の日の敬老のお祝いをこちらのレストランを会場として行うものである。

新嶋委員：東京農工大学の学生と我々の会がタイアップしながら，いろいろな事業を行っている。ここにも宇都宮大学の農学部がある。そういう学生と共同で事業を考えられないか。学生は考え方が柔軟である。自分たちが学校の授業で使っている道具を借用して，子どもたちに活動させている。何千倍もの顕微鏡を使って，本当の微生物を見せることができる。また，自分たちの演習林からヒノキを 1 本切り倒して，木の年輪から木の長さを推測するという活動や，コナラなどの大きな広葉樹の枝の広さを測る活動など，子どもたちと一緒に動き回りながら活動している。小学校の校庭の泥と，山の腐葉土の下の泥それぞれをペットボトルに入れ，同じ量の水を注ぎ，浸透の速さや流れた水の透明度などを比べる実験など，子どもたちの興味を引き立てるようなやり方で，森の仕組みなど，学校で教わっていることを分かりやすいような工夫をして教えている。こちらでも宇都宮大学学生の力を借りてそのようなことができるプログラムを検討したらいかがか。

議　長　：それは，東京農工大が主催している事業なのか？

新嶋委員：いえ，我々が企画して，学生が協力してくれている。人と安全管理は，我々がやり，学生には，プログラムでどうやって子供たちの興味をひきつけるかを考えてもらった。

議　長　：中身は，大学生が考えると。

新嶋委員：そうである。ネイチャーゲームなどゲーム感覚でやるようなものは自分たちでもできるのだが，学習的な要素のあるものを子どもたちにわかりやすく伝えてもらうために学生たちに協力をお願いしている。

事務局　：連携していけるといいと思う。宇都宮大学の教育学部と連携した事業はある。職員の中で林業関係の分野の職員がおり，森についての話をしてもらったり，学生が授業の一環でこちらのフィールドを使って，実地調査などを行ったりはしている。そのあたりをうまくリンクさせていくと，事業にも広がりが出てくるかもしれない。

糸井委員：所長の話で，来年度は小学校，中学校を交ぜて，交流の場を設けていくという話があった。テーマを交流という形で捉えたときに，小学校でやったプログラムを発展させて，中学校でこういう活動にしていくというような活動内容は，交流の場では可能なのか。学校単位で，いろいろな活動にわかれて個々にやっていくものなのか。

事務局　：次の協議事項の中で，報告と協議という形で取り上げる予定である。どんな形で小学校から中学校へ系統立てていくかなど示したいと思う。

糸井委員： プログラムの中にある，林業センターの見学というのは，どういう活動なのか。

事務局　：林業センターまで歩いて 20～30 分くらい。林業センター内を見学して木のことについての話を伺ったりしてくるという活動である。ここ数年，利用はない。場長である田代さんがいらしているので，具体的にどんな活動ができるかお話いただきたい。

田代委員： 基本的には，研究施設である。木材関係の強度試験や花粉の出の少ない杉の木の研究，松くい虫の被害に抵抗できるマツの研究などを行っている。場内には，外国産の樹木などがたくさんあるので，子どもたちが見学に来たら，学習できるようになっている。

事務局　： 学校がプログラムを組む場合には，どういうところに焦点を当てて活動するかなど林業センターの方と打ち合わせをして実施することになる。

田代委員： 学校活動プログラム実績で，２つの要素を取り入れた活動でも，片方だけをカウントするという統計の取り方はいかがなものか。自然観察体験は，他の活動とダブルことが多くカウントされていないのではないか。決して０ではないのではないか。登山であっても自然体験活動に当てはまる場合もあるのではないか。もっとよい統計の取り方があるとよいと思う。

事務局　： 確かに，複数実施した時には，両方カウントする方がわかりやすいかと思う。実績ということで，学校ごとにどれとどれを組み合わせたかというのは，担当でないとわからないということがあり，全体の統計に生かされていなかった。今後改良していきたいと思う。

糸井委員： センター内には，何種類くらいの大木があるのか。

事務局　： 登山から下りてきたあたりに，大きな大木がある。ヒノキや杉を植林した際に残った大きなホオノキがあり，シンボル的なものとして残したと考えられるものがある。

⑵　協議事項

①　今後の冒険活動事業について・・・資料　３

事務局　：　（資料にそって説明）

佐藤委員： 消費電力について。使用電力が多くなっているということだが，宇都宮市は「もったいない」宣言をしている。茂原の環境学習センターには，電気のスイッチのところに「もったいないシール」が貼ってあり，利用者が節電を心がけられるようになっている。センターでも，シールを貼ったり，「エアコンは〇度で使いましょう。」の表示をするなどしてはどうか。宇都宮市の取り組みもアピールしていくことによって，使用電力を抑えることができるのではないか。

事務局　： もったいないシールは，職員にも配られ，事務室では所々に貼って意識をはかっている。ロッジや共有スペースにそのようなシールを貼るということは，意識するということにおいて有効な手段だと思うので，取り組みに入れていく。

佐藤委員： シールが貼ってあると目立つ。市を挙げて取り組んでいることなので，小中学生にも浸透していくとよい。

神長委員： 小学校は活動が増えることになる。先ほど，おやつ作りと野外炊飯のことが例に挙げられていたが，小学生がおやつ作り，中学生は野外炊飯というのは，例なのか，それとも小学生が野外炊飯をやるのは禁止なのか。学校采配で決めていくことなのか。9 月に最初に地域学校園で実施する瑞穂野地区の４つの学校の校長同士は，小学校の活動数が増えるということで，どこまで活動の範囲を広めたらいいのかという話が出ているとのこと。危険性を考えるなどし，これはやってはいけないというものがあるなら早く知りたいと思うので，活動の制限があるのならば，どこかで打ち出さなければならないのではないかと思う。

事務局　： 先ほど挙げた，おやつ作りの発展で野外炊飯というものは例であるので，活動を禁止したり，制限をかけたりという形はとらない。学校と相談しながらやっていく。ただし，制限がかかるものとして，中学校限定のマウンテンバイク，カヌー，アドベンチャーゲームは中学校限定ということで今までと変わりはない。

神長委員： 小学校の校長は，活動を増やす場合，安全面を考えた上で，こういうものはできないというものがあれば知りたいと思うので，これは学校采配で決めて，これは中学校限定でというものが

早くわかるとよいと思う。

事務局　：方向性として，これは小学校に向いている，これは中学校でやろうというものは，今まで数が少なかったが，来年度は増やそうと思っている。明らかに小学校限定，中学校限定，それからどちらがやってもできるものというものを織り交ぜながら，色分けするものの数は増やしていく方向である。１００％強制ではなく，動きを見て，いずれは固定してしまってもよいかと思っている。５年生ではこの辺の基礎的なものをやって，２年後の中学１年生では，これを楽しもうというような一貫教育，系統教育ができていくとよいと思う。まさに今それが始まったところである。

神長委員：できればたくさん体験させたい。でも時間は限られている。そういったものが早めに示されるといいと思う。

高梨委員：利用する側として，活動内容の系統性があるとすると，小学校でこういった組み合わせが，中学校ではこうなるといったような例をセンターの方でいくつか作って提示してもらえると計画を作りやすくなる。

事務局　：研修会などで示しながらプログラムの相談に当たりたいと思う。

事務局　：4 月に実施する小学校の先生対象の研修会を行った。一番話題になったのは，テント利用についてだった。4 月の小学校はテントを使用することになる。センターとしては，子どもたちにテントも体験してほしい。

議　長　：学校側としては，テントではなくロッジを使いたいということでしょう。

佐藤委員：センターのテントは広くて，とても使いやすい。

事務局　：今年度来た 4 年生の子どもたちからは，「来年来るときにはテントに泊まりたい」という声も聞こえてきた。子どもたちは，テントで泊まるわくわく感などがあるようだ。先生方には，安全面を含めて心配される面があるのかも知れない。

神長委員：自然体験として考えると，テントに泊まるということは大変すばらしいことだと思う。しかし雨が降ったときなどのことを考えると心配もあるのかも知れない。人数の多い学校は当然テントを使用することになる。1 日交代で泊まるなど平等になるように計画していくことになるだろう。

新嶋委員：学校サイドは，管理を一番気にする。それが前面に出てくると，プログラムをやろうとする側は，狭い範囲のことしかできなくなってしまう。その辺の兼ね合いをどうしていくかといういうことがセンターでもたいへん苦労しているところではないかと思う。自分たちが実際に一般から募集してキャンプをやったときには，何もない草むらにテントを張って寝た。子どもたちからは，「外で星を見ながら寝たい」という意見が多く出た。「テントを離れても星の見えるところで寝たい」というような意見が，子どもたちから挙がってくることは理解しておいていただきたい。

神長委員：テントを張るところからはじめるくらいの余裕があるとよい。

新嶋委員：我々はそこからやっている。テントを張らなくては寝られないという状況である。

神長委員：そういった苦労が自然の中に生きるためには必要である。

新嶋委員：テントを立てながら，子どもたちのコミュニケーションができてくるグループもある。ロッジのようなできたものの中に入れるよりも，そのようなところからも人間関係が生まれてくる。そういった意味でもテント生活はいいものである。

議　長　：テントを張って寝るということはなかなかできないことなので，そういう機会があると非常によいと思う。

神長委員：エアコンのスイッチの件は，学校では小学校中学校とも設定温度が決まっていてその温度で使用している。また，職員室で集中管理をしている。必要なときに設定温度で使用するという教育もされている。

高梨委員：小中一貫という発想に立ったときに，小小交流で同じ日にできるところばかりではない。活動の中身について学校ごとに連絡を取り合いながら何を軸にして小学校から，中学校につなげる

か，連携が必要になってくる。また，センターの方からも情報を提供していただいて調整しながらやっていけるとよいと思う。

議　長　：何がねらいなのか，センター側としては，冒険活動事業のねらいがあるのだろう。学校側としては，小小交流，小中一貫というものをねらいにした方がよいのかという思いがある。

高梨委員：今までは選択できた。これだけプログラムがあって，それぞれの学校がこれをやらせてくださいということができた。小学校は小学校だけでできた部分があるが，小中一貫があるので工夫する必要があるのでは。

議　長　：小中の連携が必要になってくると，小学校でやりたいことができなくなることもあるかも知れない。

議　長　：主催事業や一般利用についてのご意見を。

糸井委員：前年度のアンケートの結果に，「施設内に，夜，明かりがなくて怖い。」と意見があったが，今後外灯を設置する予定はあるのか。

事務局　：この施設を造るにあたっては，「自然に優しい」という考えがあった。環境への配慮ということもあり，足元だけをぼんやり明るくしている。室内の電気も蛍光灯を奥に入れてあまり光がもれないようにしている。園内全体を明るくするということはない。要所要所危険な箇所は足元が照らせるようになっている。現在のままで考えている。

議　長　：夜の暗さを体験することが重要なのではないか。

佐藤委員：夜に利用したことがあるが，差し支えなかった。明るいところの生活に慣れすぎているのだと思う。暗いところでも，慣れてくると結構よく見えるようになる。暗い園内を歩くことがあるが，そういう体験も必要だと思う。むしろ，暗い中にぼわっとした明かりが素敵である。

新嶋委員：同感である。我々の祖先から暗くなったら寝て，明るくなったら起きて仕事をするという習性がある。夜のプログラムをやるときには，そういう体験をしてほしいという思いがある。夜のプログラムをやるときでも，十分明るさがあり，暗いということはない。ただひとつ，勇気のどうくつの下のぬかるみは直してほしい。

事務局　：勇気のどうくつについては，林業センターの協力で木材をいただき，それを別の会社でウッドチップにしていただいて，撒く取り組みを行い，改善されている。林業センターからは，ほかにも，活動に使用する杉板焼きの板を規格に切った状態でいただいている。また，いただいた端材をクラフトや暖炉の燃料として使っている。園内の照明に関しては，危険箇所に関しては，仮設に電気を設置したり，もれてくる照明の量を少し多くしたりして対応している。

入江委員：園路灯は，オブジェとなっていて，楽しみの一つである。その園路灯が壊れているものがあるので直してもらえるといいと思う。また，一般利用関係で，高齢者の方，老人ホームの方などをよんで，屋外でお茶会をやったり，座ったままでみんなで輪になってできるゲームをやったりするなどしてはどうか。日常とは違うことをやることで，脳も活性化される。場所のいいところで，テーブルを出しておにぎりを食べるだけでも楽しいと思う。

森川委員：余裕があれば，そういうところにも目を向けていただけるとよいと思う。

事務局　：検討していきたいと思う。高齢者のための施設の職員の方が，研修でセンターを利用したことがあった。施設の人たちに「この施設は使える」と思っていただけたらよいと思う。指摘をいただいた園路灯の件だが，それぞれの通りごとに「風のロード」，「花のロード」などの名前がある。その園路灯が壊れているものもあるのだが，石の方は修繕が難しい。光に関しては，切れているものは修繕している。楽しみにしている人がいるので，今後さらに整備を進めていきたい。

佐藤委員：私も園路灯を見ながら来た。確かに壊れているのがいくつかあったが，直して新しい形になっているものもあった。また，センターハウスの入り口のところにあるスイセンの飾ってあるオブジェを見て，気持ちがとてもほっとした。間伐材などを利用したオブジェなどがもっとあると，もっと気持ちがいいと思う。

事務局　：今後さらに園内整備を広げていきたいと思う。

佐藤委員：　小学生，中学生が間伐材を使って，自分たちでつくるのもいいのではないか。

坂内委員：　来年度の主催事業のオープンデーについて，具体的にどんなことをやるのか。

事務局　：　エンジョイサタデーで実施できなくなるツリークライミングや，なかなか一般の方にやっていただく機会の少なかったアドベンチャーゲームなどにもチャレンジしてもらえたらと考えている。1日，4，5ヵ所に分かれて活動を回ってもらえるような形での実施を考えている。

糸井委員：キャンプ場の薪について，あんなに細くしてしまってよいのか。それには何か意味があるのか。

事務局　：　薪は森林組合に依頼して入れていただいている。以前は太いものばかりがたくさんあり，なかなか火がつかなかった。細いものも混ぜて入れてほしいとお願いした。廃材を集めて，切って持ってくるので，中にはとても細いものばかり目立つ場合もある。できるだけ適正な大きさのものを持ってきていただけるようお願いしている。こちらの意図としてというものはない。

議　長　：　他にご意見はありますか。それでは，協議を終わらせていただきます。ありがとうございました。